

現在、29カ国の学習者と交流しています。

市岡国際教育協会・日本語教室は、大阪府立市岡高校定時制の閉鎖を受けて、働きながら学ぶ「定時制の灯」を消したくないと定時制の同窓会が中心となり 1996年5月にスタートしました。現在はNPO市岡国際教育協会が運営し、市岡高校同窓会に後援して頂いております。  
URL: <http://ichioka-nihongo.org/>

発行人/市岡国際教育協会理事長 吉田徳夫 /編集/広報係 大阪港市区市岡元町 2-12-12  
TEL: 080-3846-2581

特定非営利活動法人  
市岡国際教育協会 市岡日本語教室  
● 場所 大阪府立市岡高校同窓会館  
● 日時 毎週金曜日午後7時から8時半  
● ボランティア、学習者、募集中  
● 見学随時、予約不要  
e-mail: [Ichioaka\\_nihongo@hotmail.com](mailto:Ichioaka_nihongo@hotmail.com)

## 夏のボランティア研修

### ●西口先生の講演を聞いて

さすが！という感じの講義でした。長年の経験と実績からくる自信ある講義に「へえ〜！」と思わず感嘆をもらしてしまいました。特に「らりるれる」が言えない学習者の対処法、母音を小さく発音する事で聞き取りやすくなる事などは目からうろこって感じです。SHOW&TELLは市岡のイベントでも使えそうだと思います。試行錯誤し、学習者の気持ちになって一生懸命やってこられた西口先生ならでこそこの講義だったと思います。受講できてちょっと得した気分。年々研修会がレベルアップし、なおかつ楽しいものになっていっていますね。段取りをしていただいている方々に感謝です！ありがとうございます。

(教務班 木村博美)

### ●目からうろこー7月31日「市民による日本語習得支援」研修会に参加して

「日本語教えるボランティアに行きませんか？」と誘われて、(英語をちょっと勉強しているし・日本語教えるのも勉強になるかも)気軽に「行きます」といつてから3ヶ月余。

「4回は見学者ですよ」といわれたのに、3回目にはインドネシアの人が「敬語を教えて欲しい」と言っていると1枚のプリントを渡され、4回目には「祇園祭へ行ったから、祇園祭の事を教えて」という中国の人を担当することに。

隣のボランティアさんを見ると「は」と「が」の違いを説明されていて、「そうか、なるほど」と私が感心し、反対側では「祇園祭とは…」といろいろと説明もされていて、「私には無理！」「教えるより、日本語や日本文化を勉強しないと！」と聞いていた矢先に、初めての研修を受けることになりました。

大阪大学西口光一先生は、開口一番「日本語を教えるのはやめなさい！日本語を教えようとする文法や発声がつきまとう(いやそうな顔で)」とおっしゃいました。プロの日本語教師は正しい文法や発声と同時に日本語をたくさん話す環境も準備します。が、アマチュアのボランティアは「おしゃべり」すればいい。自然習得する機会を与えるだけでよい。それこそが、日本語習得支援です。といわれました。

そのためには

- 1 辛抱強く外国人の話を聞くこと。下手な日本語を1時間以上も聞いてくれる人はボランティア以外にありません。そして、ときどきわかりにくいところは聞き返してください。
- 2 うまく表現できないときには、道を教えるが如く、「それはこのように言ったらいい」と日本語を教えてあげてください。
- 3 外国人の日本語のレベルに合わせて、面白い話をしてください。話のネタは「日本語 おしゃべりのたね」(西口光一監修、沢田幸子他著)をご参考に。要は外国人の「連れ」になることです。

西口先生ありがとうございました。ちょっとボランティアをかじっただけで外国人から「先生」と呼ばれ、「先生」らしくなくっちゃと思った私にとっては、目からうろこ。これからは「連れ」を目指します。「連れ」になら、わたしも何とかなれるかも！

(5班 松村正子)

### 日本語支援のための参考書

- 「日本語 おしゃべりのたね」西口光一監修、沢田幸子他著(スリーエーネットワーク)
- 「にほんご 宝船」春原憲一郎著(アスク)
- 「例文で学ぶ漢字と言葉(3級編)ーイーさんと日本の友だち」

- 恒例の夏期ボランティア研修会を7月31日と8月7日の2日間実施しました。
- 1日目は日本語教育の第一人者、大阪大学留学生センターの西口光一教授に来ていただきました。西口先生には5、6年ぶりをお願いしました。
- 2日目は西宮市のsakuraFMで「元気印!国際交流」という番組を担当しておられるアナウンサーの竹之内由加さんからお話を伺いました。

### ●竹之内先生の講演を聞いて

今日の研修テーマは「ハートフル・コミュニケーション〜プロの聞き手の対話術」。講師・竹之内先生はさすがプロのラジオパーソナリティ、見るからに明るく、人柄の良さそうな柔らかい雰囲気的女性でした。なるほど、良い聞き手たるもの、まずは第一印象が大切と いうことですね。言葉や習慣の異なる方とお会いする時には、特に重要な部分かも知れません。

そして挨拶。最初の挨拶は、ドレミ音階の「ラ」の高さで発声すると印象が良いとのこと。これは普段、まったく意識していませんでしたが確かに効果がありそうです。ちなみに朝、子供を送り出す時もラの音で「行ってらっしゃい」と声をかけると、子供もその勢いで元気に出掛けることができるそうです。また、普段の会話は「ミ」の高さが安心感を、「ソ」が前向きな気持ちを伝えてくれるということで、なんだか科学的で興味深いお話。音痴の多い私にどこまでできるかは分かりませんが、早速試してみたいと思います。

もうひとつ真似したいのが、「相手の国にちなんだ物を身につけていく」ということ。竹之内先生はお相手の出身国の特産品アクセサリを身につけたり、それが難しい場合は国旗カラーをコーディネートに取り入れられているそうで。これって、美智子皇后やダイアナ元英国皇太子妃も実践なさっていたと聞いたことがあります。やっぱり、人の心に入っていくにはそれなりの心遣いが必要ですね。今日は学習者さんの国の言葉で挨拶してみよう！と思いつつ、毎回「こんにちは」とつい日本語が出てしまう私はちょっと反省でした…。

日本語を教える前に、まず学習者さんにとって魅力的な話し相手であるか。自分を振り返る良い機会になりました。暑い中お越しいただいた竹之内先生、また準備して下さった班長関さんはじめ教室の方々、ありがとうございました。

(5班 阿佐直美)

### ●竹之内先生の講演を聞いて

先日の竹之内由加さんのお話はさすがラジオのパーソナリティーだけありとても聞きやすく、楽しいお話でした。そして、いろいろ学ぶことも多かったです。

まず、話し方です。相手にとって聞きやすい話ならばその話は興味深い話になるでしょう。しかし、相手にとって聴きにくい話であったならばその話は興味深い話にはならないのではないかと思います。そういう意味で、日本語により興味を持ってもらうためにめ話し方は大切だと竹之内さんのお話を聞きながら感じました。

次に、相手の国のことを調べ過ぎないとおっしゃっていたことについてです。このことは私が普段全然気にしていなかったもので、新しく気付かされたことでした。日本人は特にそうだと思うのですが、完璧を求めるからなのか、相手の国のことを調べ過ぎて『あなたの国って〜だよ』と決めつけてしまっ て、それ以上相手の国のことを知ろうとしていなかったのかもしれないと思いました。そのことがわざとでなかったとしても、これでは、相手との距離は縮まらないよなあと感じました。

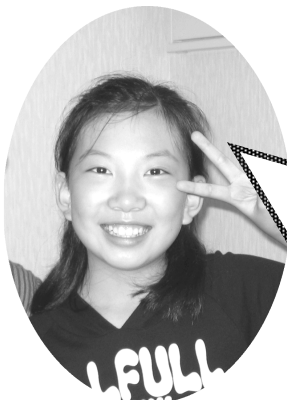
他にも相手の目を見て話すとか、話しやすい雰囲気を作るだとかどれも当たり前のことといえば当たり前のことかもしれませんが、当たり前のことだからこそ出来ていなかったし、改めて気付かされたことが多かったのだと思います。

(2班 村尾友梨)

## 学習者の声 その1

### 日本語がペラペラになりたい

### 4班 宋 曉涵(中国)



わたしは、2008年の7月15日に中国から日本へ来ました。9月の2学期から築港小学校の4年1組に入りました。最初は日本語がわからなくて、困りました。休み時間にみんなはわたしにいろいろな質問をしました。でも、日本語がわからなくて、だまっていた。すると、みんなは絵をかいたりして説明してくれました。じゅぎょうでも、先生の話や説明がわかりませんでした。だから、国語の時間、別の先生がわたしについて1カ月くらい助けてくれました。

四年生のとき、いちばん好きなじゅぎょうは理科でした。じゅげんがおもしろかったからです。いちばんきらいなじゅぎょうは、国語でした。先生が黒板に字をいっぱい書いて、みんなはいっしょうけんめいうつきないといけなからです。

五年生の今は、先生の話が75%くらいわかります。友だちの話は70%わかります。読むのは55%、書くのは85%くらいです。休み時間は、友だちとよく話をします。

わたしは日本語がわからないとき、友だちのこたばをノートにうつして、家に帰ってお母さんに聞きます。それでもわからなかったら、じょでしらべます。友だちとの話でわからないことばがあると、「OOって何?」と聞きます。そうすると友だちは、手で説明してくれます。ときどき先生のれんらくでわからないことばがあります。そのときは、先生に「OOって何ですか?」と聞きます。

うちでは、お母さんやお父さんと中国語で話します。ときどきお母さんに中国語でおこられます。わたしはメチャクチャな日本語でかえします。お母さんはわたしの日本語がわからなくて、「何?」と聞きます。わたしは、「おこらなかったら、おしえてあげる」と言って、中国語で意味をおしえてあげます。でも、お母さんはまたおこります。

今は学校生活がすごく楽しいです。とくに、給食の時間が大好きです。おいしいごはんを食べたり、みんなといろいろな話をしたりできるからです。これからも、もっと日本語がじょうずになって、ペラペラになりたいです。